



# こどもニュース



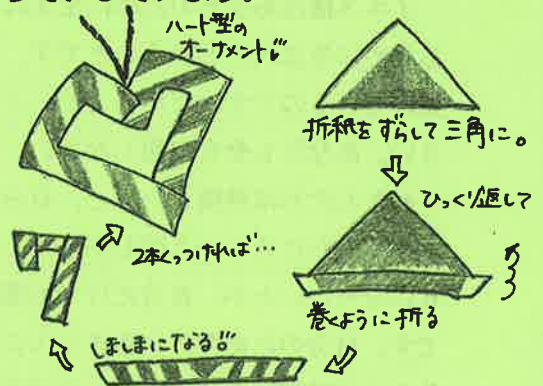
2019年度  
クリスマス特集 ②  
11.27発行



幼稚園もこれからアドベントに入ります。11月27日の礼拝では、アドベントクラッツの4本あるロウソクの中の、1本目の明かりを灯しました。いよいよクリスマスが近づいてきます。

初めて幼稚園のクリスマスを経験することとなる年少さんや転園してきたお子さんも、クラスの時間や学年でのあつまりの時間の中で、聖書のお話を聞きながら、クリスマスについて少しずつ知っていきます。年長さん年中さんの歌っている讚美礼拝の歌にも、だんだんと年少さんの声も合わさるようになってきました。クラスでもアドベントカレンダーやクリスマス献金箱づくりを行い、少しずつ幼稚園全体がクリスマスの装いへと変わっていています。

今年のアドベントカレンダーは、クラスの時間を使って2枚の折り紙を使って作りました。折り紙を折ることが上手になってきた年少さんも、新しい折り方にわくわく。年中さんの中には、作った翌日には、「お家でも作ってみた！」と嬉しそうに持ってきてくれる姿もありました。年長さんにとっては、三度目のアドベントカレンダーです。飾ることを意識しながら作っている子どももいました。



このアドベントカレンダーは、これから何人かずつの子どもたちが日を追うごとに、クラスで飾っていきます。クラスのお友達全員が飾り終わった日は、いよいよ讚美礼拝当日です。

アドベントカレンダーの飾りが一つ増える度に、だんだんと近づいてくるクリスマス。イエスさまのお誕生を子どもたちと一緒に、指折り数えて待ちたいものですね。

(ゆか)



『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』

この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。』

(マタイによる福音書1章23節)

イエス様がお生まれになるとき、イエス様にはもう一つ別の名前がつけられています。それは、インマヌエルという名前です。その意味は、神は我々と共におられるということです。神様は、わたしたちと共にいる。イエス様がお生まれになったのは、このことを知らせるためだったのだということです。これは、もうすこし分かりやすく言えば、神様というのを、愛と言い換えてもよいでしょう。愛があなたと共にある。あなたのところに愛がくる。

わたしたち人間というのは、決して一人で生きることのできる存在ではありません。誰もが愛されたいと願っています。口には出さなくても、特別に意識することはなくても、愛されたいという願いがわたしたちの中にはあるのです。だからこそ、裏切られたとき本当に傷つくのです。友達を失ったとき、悲しくて悲しくて仕方がないのです。家族や愛する人を失ったとき、絶望してしまうのです。しかし、そんな時、それでもあなたは大丈夫、あなたから愛は離れていない、あなたは愛されているのですよと語りかける声がある。それがイエス様のメッセージです。

イエス様はあなたのために生まれました。それは言い換えれば、あなたを愛するために生まれたということです。皆さんお一人お一人が、イエス様からの愛を受けているのです。だからこそ、イエス様は命じるのです。あなたも愛を行いなさい。あなたも愛を実現しなさい。そこにわたしはいる。

わたしたちは神様というと、自分の願い事を叶えてくれる方だと考えてしまいます。確かにそういう面もあるでしょう。けれども、自分のためとか、自分が幸せになりたいとか、自分だけでも楽に生きたいと思っているうちは、無理なことです。自分のためだけに生きる人には、本当の愛はないからです。だからこそ、そこには神様は共にはいないのです。しかし、愛を与えようとする人、愛に生きる人、イエス様の生き方に従おうとする人には、主は共にいてくださるのです。愛が実現するところに神様は共にいてくださるのです。そのとき、初めて、あなたの願いも、あなたの祈りも、主は聞いてくださることでしよう。

(鎌田在弥)



## クリスマスにまつわる言葉

最近では、クリスマスに関係する様々な言葉を聞くようになりました。聞き覚えのあるものも多くなっているのではないのでしょうか。

幼稚園では本日の礼拝から、アドベントに入りクリスマスを待ち望み準備する季節となりました。イエス様がこの世に生まれてくださった意味を「クリスマスにまつわる言葉」を通して考えてみませんか。

### \*アドベントクランツ\*

クランツは花、または葉の環状の編み物・花輪・葉環の意味です。常緑樹の枝で環(輪)を作り、ろうそくを立てたものです。

常緑樹の緑の環は「神様の永遠」を、ろうそくはキリストが「世の光」として来られる喜びを意味しています。常緑樹にはモミの木、ヒイラギ、スギ、ヤドリギなどがよく使われます。

### \*アドベントカレンダー\*

アドベントの期間、一つずつカレンダーをめくるようにし、イエス様を心に迎える準備をするものです。市販されているものは、12月1日から1日ひとつ、日にちの部分を開けていくものが多いようです。

幼稚園では、ひとり一つずつ作った飾りを毎日飾りつけていき、全員が飾り終える日が讚美礼拝の日となるようにしています。

今年は

「今日は誰が飾るのかな」「私はいつ飾るのかな」とワクワクした気持ちで「待つ」ことこそ、遠い昔ユダヤの人々が、救い主の到来を待ったのと同じような思いにつながるのではないのでしょうか。

### \*ハレルヤ\*

ハレルヤとは、ヘブライ語で「主をほめたたえよ」という意味です。ヘンデルのメサイアに出てくる「ハレルヤコーラス」は、どこかで聞かれたことがあるのでは？

幼稚園では、讚美礼拝での一つひとつの事柄を子ども達に伝えていく時間を「ハレルヤ」と呼んでいます。それは「本当のクリスマスを知る時間」「自分に与えられたクリスマスの役割について知る時間」そして「クリスマスの喜びをありがとうと讚美する時間」と考えています。

ハレルヤが始まると「クリスマスブック」というイエス様誕生のお話が書かれたオリジナルブックをもらいます。ご家庭でも一緒に読んだり、讚美歌を歌うなどして楽しみながらクリスマスまで準備してくださいね。また幼稚園でも毎日使いますからリュックの中に入れてきてください。

## 『クリスマス献金』

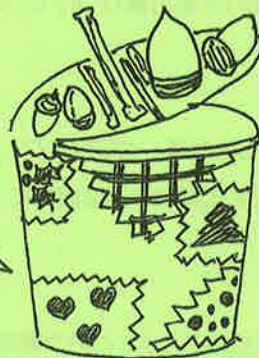
『献金』という言葉を知ったのは、中学1年の時でした。当時は、学校や教会で色々な方から話を聞いても、あまりピンとこないまま神社で賽銭を入れるようなそんな感覚で捧げていたのを覚えています。毎年クリスマスの準備が始まる時期になると、子ども達にどんな風に話したら献金の意味が伝わるのかと考えます。

子ども達に気づいて欲しいことは、恵まれた環境にあることや多くの愛に囲まれていること、全て神様の愛のもとに備えられていること等たくさんあります。また世界の人々に心を寄せる機会にもしてあげたいと思っています。

クラスでクリスマスに向けての献金箱作りをしました。その時にある子どもが「それ持ってる、貯金箱でしょ!」と言ったのを聞き、すかさず年長児が「違うよ、献金箱だよ」と訂正していました。それを機に貯金箱と献金箱、何が違うのかな?とみんなで考えることができました。また子ども達からは「その献金をどこで使うの?」という質問も出ました。「どうしたら良いと思う?」と問い返すと「幼稚園?」「たくさん雨が降っちゃって困ってる人の所は?」「病気の人もいいんじゃない?」と一生懸命に考え、様々な答えが返ってきました。子ども達の中には、まだ???の子もいると思います。クリスマス献金をご家庭で捧げながら、少しずつ(そういうことかあ)と分かっていくでしょう。

今年の献金箱は・・・

まわりに布を貼って飾りました。



幼稚園のまわりで拾ったどんぐりや枝をのせて持ち手に・・・

木工用ボンドの使い方が上手になりました!!

今日、持ち帰る献金箱はクリスマスまでの間、ご家庭でお使いください。今日も元気だ、健康をありがとう、友だちといっぱい遊んだ、楽しいをありがとう、それ良いアイデア、良い知恵をありがとうetc.子どもと一緒に何か嬉しい出来事があった時に「神様、この喜びをありがとう」とお祈りし献金していただけたらと思います。そして親子クリスマス礼拝の日に<sup>3</sup>ニーランドルフ 記念講堂でお捧げください。別の入れ物に移して、持ってきていただいても構いません。

日頃の生活の中で、感じる“嬉しいな”、“楽しいな”、“ありがとう”を献金箱にたくさん詰めていくことができるようにと願っています。



## [父母の会講演会・証の会のお礼申し上げます]

素晴らしい父母の会講演会に続き、秋の伝道週間としてクリスチャンとして歩まれている在園児のお母さまによる神様からいただいた恵みのお話し“証の会”と、“讚美歌をうたう会“の賛美（歌声もピアノ伴奏もフルートの音色も素晴らしくて！）に、心洗われるひと時でした。

鎌田在弥牧師からは聖書のお話をいただき、この日は贅沢なくらいに豊かな時間に恵まれました。その後の子どもの合同礼拝でも讚美歌をうたう会の方々に讚美をしていただき、子ども達は真剣に聞き入っていました。子ども達の賛美の歌声もいつも以上に高らかでした。

ご奉仕された方々、父母の会役員・委員さん、お手伝いくださった方々、そして参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

12月4日には”聖書を読む会“主催で在園児お父様のトランペット演奏をお聞かせいただけるとのこと、とても楽しみです。皆様も是非いらしてください。

さて、キリスト教会では12月1日よりアドベント(キリストの待降節)を迎えます。幼稚園では11月27日から12月4日・11日、3回の合同礼拝ののち、にじ組では16日、他の学年では17日に讚美礼拝として4本目のロウソクを灯しクリスマスをお迎えいたします。

クリスマス讚美礼拝では聖書に基づいたイエス・キリストの誕生の場面を再現し行います。年長児の担う役柄も、年中児の聖歌隊も、年少児の役柄も、皆礼拝を担う奉仕者です。そして保護者お一人お一人には“神様を賛美する役”を担っていただきます。子ども達に負けず心こめて賛美いたしましょう。保護者の讚美歌練習にどうぞご協力ください。

インフルエンザの流行時季になりましたが、園でも予防に努めて参ります。

厳粛な中に、喜び溢れるクリスマス礼拝を迎えられますように。

馬淵宣子

